

二〇一三年度国文学会彙報

二〇一三年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生会主催

二〇一三年四月五日（金） 新島会館

△国文学会総会・研究発表会▽

二〇一三年六月一日（日） 良心館三〇五教室

・総会

・研究発表

国家に寄与する〈危険人物〉

——森鷗外「ロビンソン・クルソオ」における社会主義と文

部省による文芸評価をめぐって——

坂崎恭平（本学大学院博士課程前期課程）

谷崎潤一郎『鶴唳』における漢籍要素

——「鶴」の象徴的意味を中心に——

李春草（本学大学院博士課程後期課程）

小説における「コノ」「ソノ」の代行指示用法

——後続名詞類との関わりを中心に——

張子如（本学大学院博士課程後期課程）

△授業実践報告▽

安部公房「棒」

——文学教材をどう教えるか——

山田哲久（同志社女子中・高等学校教諭）

・講演

万葉集研究の楽しさ

坂本信幸（高岡市万葉歴史館館長・奈良女子大学名誉教授）

△国文学会研究発表会・伝統文化継承者成果発表会▽

二〇一三年一月二四日（日） 良心館三〇五教室

・研究発表会

聖武天皇歌の「寛」の訓義をめぐって

大八木宏枝（本学大学院博士課程前期課程）

武田泰淳「恐怖と快感」論

——戦後における精神分析学の流行とその問題点——

藤原崇雅（本学大学院博士課程前期課程）

やまとの一本薄考

垣見修司（本学准教授）

・伝統文化継承者成果発表会

謡「狸々」「高砂」

赤松貴美（本学学部二年次生）

詩吟「寒梅」「大江山」

院生部会主催

徳永保希（本学学部二年次生）

二〇一四年三月一日（土）～一六日（日）

△講演会▽ 院生部会主催

二〇一三年二月三〇日（土） 弘風館四六教室

亡霊と語りによる時空の脱臼

二〇一三年一月二三日（水）～一四日（木）

—— 静の（ウタ）を始発にして ——

高木信（相模女子大学准教授）

△同志社国文学▽

第七九号 二〇一三年二月二〇日発行

△国文遊歩▽ 学生部会主催

第一回 二〇一三年六月三〇日（日）

金閣寺・龍安寺・仁和寺

収載論文八編、実践報告一編、資料紹介一編  
第八〇号 二〇一四年三月二〇日発行  
収載論文六編、資料紹介四編

第二回 二〇一三年十一月一日（日）

奈良国立博物館（正倉院展）・春日大社

△国文学会会報▽ 第四一号 二〇一三年三月二〇日発行

第三回 二〇一四年二月一日（火）

法住寺・東福寺・伏見稲荷大社

二〇一三年度博士論文題目

『新古今和歌集』の配列に対する修辭技巧の役割

△キャンパス内施設見学会ツアー▽ 学生部会主催

二〇一三年七月一日（土） 今出川キャンパス

—— 歌枕・体言止め・本歌取りを中心に ——

ジョルダノ・ジュセッペ

△国文合宿▽ 学生部会主催

二〇一三年八月二九日（木）～三〇日（金）

日本古典芸能と中国文学

—— 催馬楽・今様・能をめぐって ——

松 沢 佳 菜

琵琶湖リトリートセンター

『諸道聴耳世間狙』における演劇作品の受容 王 欣

二〇一三年度修士論文題目

桜井王と聖武天皇の贈答歌

——『万葉集』巻八・一六一四、一六一五番歌論——

大八木 宏枝

延慶本『平家物語』所収和歌の再評価

——「古歌」の用法をめぐって——

『古今著聞集』の世界

——成季の聖代観をめぐって——

『栄花物語』の方法

——死の叙述をめぐって——

〈さよひめ物語〉の享受者層と表現の特質

——都市文芸としての奈良絵本・京大本『さよひめ』——

四代目鶴屋南北の「亀山の仇討」物三作の

位置づけ

——先行作品との影響関係を中心に——

森鷗外文学における〈国家〉と〈社会主義〉

——法・制度・思想——

坂崎 恭平

二〇一三年度卒業論文題目

記紀における久米歌の効果、ならびに神武天皇との関わり

人見 梨子

記紀における月の神・ツクヨミノミコト研究

万葉集巻二・二〇三番歌結句の解釈

挽歌としての羈旅歌

——万葉集巻七・一四一七番歌について——

巻十六 筑前国志賀白水郎歌における袖振りについて

霊異記における説話の方法

——中巻第三十縁をめぐって——

『源氏物語』における贈答歌の描かれぬ男女

——『うつほ物語』との比較から——

『源氏物語』における外腹、劣り腹の人物考

『和泉式部統集』帥宮挽歌群の構成と和歌の表現

詠歌の方法から読む『讃岐典侍日記』

『とりかへばや物語』

——主人公と主題——

『山家集』答志・菅島の歌の独自性

宮地 美歩

水井 珠紀

村山 みどり

山村 周

有馬 良一

有山 尚利

辻野 夏奈子

森田 美保

中禮 和昭

源実朝の闇と光

——「黒」「白」の歌を中心に——

上條 翔太

『宇治拾遺物語』「鬼に撞取らるる事」の笑い

柳 菜々々

『宇治拾遺物語』「吾妻人生贅をとどむる事」の特質

——『古今昔物語集』と中国文学との比較から——

池田 悠

『古今著聞集』における源義家像

新宅 直樹

『十六夜日記』再評価

服部 満由美

——第一部・第二部を通して——

『玉葉和歌集』釈教部に關する考察

河合 友紀奈

『永福門院百番御自歌合』小論

川西 真里香

——花の歌を中心に——

『源平闘諍録』における梶原氏の特異性

松村 のぞみ

謡曲「隅田川」考

天本 長子

謡曲〈落葉〉小考

加藤 森平

地名からみる『閑吟集』考察

松村 はづき

和歌からみる『鉢かづき』の構成

樫根 尚子

お伽草子「物くさ太郎」の乞食性について

濱名 志緒里

『御伽草子』「浦島太郎」における「玉手箱」の役割

池田 早希

御伽草子「木幡狐」の主題と稲荷信仰

——他の狐女房譚との比較から——

近藤 茉莉

『波川版「蛤の草紙」について

——見るなのタブーを中心に——

小川 あすか

『南都名所集』の文芸性と近世奈良地誌としての位置付け

岩田 真希

『男色大鑑』における女性描写の存在

菅谷 奈央

近代百物語について

竹田 有佳

上方歌舞伎と江戸歌舞伎

——二代目中村富十郎を中心として——

伊藤 早露

『連獅子』の成立と獅子の系譜

沖津 志津代

歌舞伎にみる八百屋お七

——「櫓のお七」「天人お七」を中心に——

奥部 由記子

「皿やしきもの」における「皿敷え」の意味

櫻本 和果

寛政期嫁入物における逸脱さ

——十返舎一九の黄表紙から——

大杉 里奈

山東京伝の黄表紙における出典の利用方法

——『不案配即席料理』『八被般若角文字』から考察——

式亭三馬の『浮世風呂』、各編の特徴

水沢 かれん

衛藤 孟

昔話物黄表紙の方法

井上 紫央里

歌舞伎「しらぬひ譚」における黙阿弥の作劇法

表象する住居

——明治後期の住居意識と漱石前期三部作——

——合巻『自縫譚』との関係を手がかりに——

大 関 綾

植物にみられる象徴性

村川 弘樹

美女丸伝承を題材とした作品の登場人物の考察

——「泡鳴五部作」北海道を舞台に——

木下 昇大

泉鏡花『海神別荘』上演考

津 知恵子

道成寺物語の変身パターンについて

西澤 文香

——鏡花「お化けもの」戯曲について——

鎌 谷 渉

岩の怪異性に関する調査

立道 なつみ

鷗外が「高瀬舟」に込めた本当のメッセージ・真意とは

落語『饅頭こわい』考

鳴海 力哉

新宅 海伶

——「狐の話」をめぐって——

理想と諦念との折衷

四谷怪談の受容

——「美しき町」たらしめる〈徒勞〉と〈加筆〉——

——明治・大正・昭和の演芸画報を中心に——

松本 幸

近藤 啓太

山田美妙『蝴蝶』・『いちご姫』

松永 奨生

島崎藤村『新生』論

——明治時代、女性社会からの考察——

松永 奨生

——『新生』における「告白」することの意義——

登場人物の立場からみた「坊っちゃん」と

藤岡 菜穂

芥川龍之介「藪の中」における女性観

教師としての「坊っちゃん」

藤岡 菜穂

非常識な河童

言文一致をめぐる〈風景〉

平石 岳

——「水虎考略」と「山鳥民譚集」

——徳富蘆花「漁師の娘」——

平石 岳

に見る芥川の独創性——

横光利一「ナポレオンと田虫」における表現

瓜生 信平

結核から見る梶井基次郎の人物像について

中井 麗

色彩から見る梶井基次郎

小野 洋揮

——「檸檬」を中心に——

「邦子」から見る志賀直哉の家族に関する思想

廣瀬 樹

『真知子』による積極的な幸福の追求

高木 悠里

過去をふりかえる女の子のメタ少女小説

成田 真由美

——尾崎翠「第七官界彷徨」論——

尾崎翠「こほろぎ嬢」

樗木 菜津美

——不健康の無抵抗——

谷崎潤一郎の「春琴抄」における春琴と佐助の関係について

芳本 紗季

谷崎潤一郎「少年」にみるマゾヒズム

谷本 一平

——「子供」の必然性と「家」の舞台性——

谷崎潤一郎「猫と庄造と二人のをんな」

山田 夏子

——阪神間と猫に注目する——

坂口安吾「紫大納言」

神山 徳己

——異同とファルスの相関について——

中島敦「山月記」論

——虎への変身は李徴に何をもたらしたのか——

林芙美子「冬の林檎」における反戦意識と宗教性

小林 朗人

織田作之助「それでも私は行く」の文学論

——青春の反映と新聞小説における可能性の文学——

落合 翔

安部公房とSF

——「人間そっくり」に見る——

野坂昭如「火垂るの墓」フィクションから

草葉 樹

描きたかったもの

——日常生活の中にあつた戦争——

古井由吉「円陣を組む女たち」

——男女それぞれの「熱狂」——

宮本輝『道頓堀川』に見る、場のリアリティ

昭和との「あ・うん」の呼吸

「ねむり姫」論

——院政期の仏教から見る原点——

若狭 千尋

鷹見 京香

『星条旗の聞こえない部屋』から聞こえる日の丸

——設定された舞台・人物の効果—— 荒井 菜奈央

村上春樹と一九八〇年代

——三つのメディアと「ダンス・ダンス・ダンス」——

宮田 敬一

村上春樹「人喰い猫」と「スプートニクの恋人」をめぐる

——デタッチメントからコミットメントへ——

大石 友紀子

恩田陸作品の〈閉じられた空間〉における少年・少女

——『六番目の小夜子』・『ネバーランド』論——

上田 奈帆子

『決定版飛龍伝 ある機動隊員愛の記録』と六〇年安保

——題名に込められた皮肉—— 入谷 梨香

『池袋ウエストゲートパーク』における音楽の使用法と効果

岸田 拓也

『ミッキーマウスの憂鬱』で描かれる

職場としての東京デイズニールランド 堀野 舞歩

——「夢の国」で描かれる格差社会——

象徴詞からみる平安文学 瀨崎 継一郎

『源氏物語』の「はづかし」「はづかしげなり」

——類義語との使い分けをめぐる——

「かなし」の意味変化について 澤口 廉

近世の訓読法における桂庵玄樹点の影響について

——『大学章句』の助字付訓を中心に——

ウッド・ジェレミー・ジョージ

『和英語林集成英和の部』の見出し語・訳語の変化

小塩 和博

北原白秋作品における色彩語

——クラスタ分析を用いて——

渡邊 大貴

漫画化における表現的特質の傾向

——夏目漱石作品との比較から——

西嶋 大貴

大川七瀬原案漫画における語彙および表記の調査

若者向けファッション雑誌の表記・語種

——時代差を中心として——

ファッション誌『J』における「〜感」の上接語句

——「〜感じ」「〜感覚」との比較を通して——

「拝む」とその関連語との意味検討 平林 せな

——認知意味論的観点から—— 大森 早貴

類義語の使い分け

——「にくい」「づらい」「がたい」——

J・ポップの歌詞に見る英語的表現

前田 尚志

流行歌の歌詞の語彙研究

有田 梨香子

レコード大賞受賞曲における色彩語調査

尼田 さやか

日本の昔話における自然物語彙について

宮里 裕美

シリーズ絵本の語彙調査

土倉 佳子

怪談落語におけるオノマトペの音韻的特徴

長野 あやか

自動車名の音韻構造

西川 奈緒

沖縄姓の音の配列

蒲 季穂

子どもの名前の近年の傾向

津波古 勝人

外来語の「テイ」「チ」における表記・記述

及川 まり

および発音の定量的研究

孫 東洋

比喩的意味から見た日本語の特徴

——日漢英の身体語彙を比較して——

小林 夕希子

日・韓の小説における会話文末に現れる

李 受倫

行為要求表現の比較について